

大谷大学は、今年で三四歳です：

2009年度 春季企画展

# 大谷大学のあゆみ

## ～大学の前身・学寮の時代～

History of Otani University



### 2009.4.1 wed - 5.16 sat

## 大谷大学博物館

Otani University Museum

大谷大学の前身である学寮は、寛文5年(1665)に創立され、宝暦5年(1755)には高倉魚棚に移転、その地名から高倉学寮と称されました。そして寺院子弟の教育の制度的充実と共に、近世における宗学が形成されました。

一方、明治維新の動乱の中で、慶応4年(1868)に学寮の敷地外に護法場が設けられ、真宗・仏教学以外の学問が外学として教授されるようになりました。護法場は時代を見すえながら広い視野の下で仏教を学ぶべきがけとなり、宗門機構の改正を求める大きな流れを生み出します。しかし、これを快しとしない守旧派の刺客によって、講師・開院院空覚が暗殺されるという事件もおきました。

本展覧会は、「高倉の学寮」、「近世宗学の形成」、「維新期の護法場」の三つのテーマによって構成しています。大谷大学の前身を担った先学たちの尊い営みの一端を感じていただければ幸いです。

### I 高倉の学寮

#### 1 東本願寺御境内町絵図 1幅

紙本淡彩

学寮の位置が示された最も古い絵図。大谷大学の前身である東本願寺学寮は寛文5年(1665)に東本願寺寺内に創設され、やがて延宝6年(1678)に涉成園(「御隠居御屋鋪」)の西側(右)に移転された。



#### 5 恵然建議 写(『大学寮沿革記』) 1冊

紙本墨書

宝暦4年(1754)、第2代講師恵然らが出した、学寮の設備・組織全般に関する意見書。この建議をきっかけに、学寮は高倉通へ移転し、翌5年(1755)新しい学寮が竣工した。所化寮に松・梅・桜などの名を付ける事、案内役人の称号を定める事などを提案した。

#### 6 高倉学寮敷地図 1幅

紙本墨・朱書

高倉通魚棚に移転した学寮の敷地図。紙の名から高倉学寮と呼びられた。この地は現在の東本願寺高倉会館(京都市下京区)にあたる。本品は、文化10年(1813)頃の図と考えられる。

#### 2 高倉学寮諸制条 1冊

紙本墨書

学寮の創設から幕末にいたる高倉学寮の諸規則を集成した記録。14の規則に加え、「入寮願」や「副講願」など願書の書式も記されている。展示箇所は学寮創設時の規則「寛文年中御壁書之写」で、受講の心得が記されている。

#### 7 入寮制条 1冊

紙本墨書

冒頭に入寮所化(学生)が守るべき規則を掲げ、その後に入寮者本人の承諾を示す署名と、宿屋名が記された名簿。寮内寮外ならびに他所において酔狂してはいけない、などの生活規律が定められている。

#### 3 光遠院恵空肖像 1幅

絹本着色

正徳5年(1715)、初代講師に任命された恵空(1644～1721)の肖像。講師とは、学寮を統括・管理するいわば学寮の長である。恵空が講師に就く以前は、東本願寺の御堂の仏事一般を勤める御堂衆によって学寮の教育・管理がなされていた。

#### 8 高倉学寮席札 2点

木札

高倉学寮知事の即印と、所化(学生)南冥の席札。いずれも裏面には「六条御殿御学寮」の焼印が捺される。

#### 4 香厳院恵然肖像 1幅

絹本着色

学寮の高倉魚棚移転・拡充に尽力した、第2代講師恵然(1693～1764)の肖像。

#### 9 春秋安居日記・夏安居日記 各1冊

紙本墨書

安居期間中の知事所事務日記。安居は、インドの雨季に釈尊の教団が勉強に励んだことに由来する。学寮での教育は夏安居を中心に、講師・副講・擬講による講義が進められた。のち夏講期間だけでは不充分として、春・秋安居が設けられた。

#### 10 上首寮日記 全5冊のうち

紙本墨書

高倉学寮の事務長とも言うべき上首が、文政6年(1823)から明治5年(1872)まで書き継いだ学寮の日記。全5冊。学寮の諸行事や建物の修繕、所化(学生)の動向がうかがえる資料。

#### 16 大方広華嚴經(黄檗版大蔵經)

紙本木版

全276帙のうち

丹山順峯(1785～1847、越後国浄勝寺)が文政8年(1825)より10数年の歳月をかけて、建仁寺蔵の高麗版をもって校合した黄檗版大蔵經。朱で異同を記す。

#### 11 高倉学寮御出入方名簿 1冊

紙本墨書

高倉学寮へ出入りする本屋・筆屋・衣屋・肴屋など様々な業者の名簿。文化6年(1809)から明治5年(1872)まで書き継がれている。出入方は入頭である本屋西村九郎右衛門・筆屋中村忠兵衛の推挙をうけるべき事など、業者にも様々な規則が設けられていた。

#### 17 歎異抄問書 1冊

紙本印刷

妙音院了祥(1788～1842、三河国満徳寺)が著したもの。了祥は厳密な実証主義に基づいて研究を進めた。『歎異抄』は従来、本願寺2世如信の作とされてきたが、これを河和田唯円の作と推定した。本品は、明治42年(1909)法話会出版部より発行されている。

### II 近世宗学の形成

#### 12 香月院深励肖像 1幅

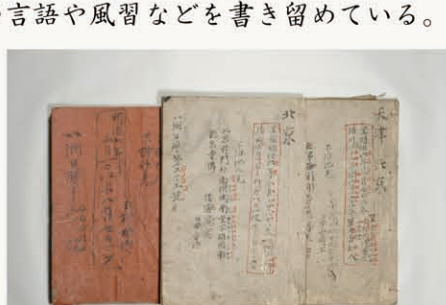
絹本着色

寛政6年(1794)に講師に任じられた深励(1749～1817、越前国永福寺)の肖像画。安居講師を務める一方、各地に赴き布教をおこなうなど大谷派学寮の向上、集大成に尽力した。

#### 18 八洲日曆 全160冊のうち

紙本墨書

小栗栖香頂(1831～1905、豊後国妙正寺)の日記。安政5年(1858)から明治37年(1904)にかけて書かれた。香頂の主な業績の一つは中国布教である。展示箇所は明治6年(1873)中国へ留学した時の記録で、在地の言語や風習などを書き留めている。



#### 13 三帖和讃 3冊

紙本墨書

『三帖和讃』の諸本、羽州本(酒田浄福寺本)・河州本(八尾慈願寺本)・文明開版本など9本を校合したもの。寛政11年(1799)刊行。深励のテキストに対する着目の繊細さがうかがわれる資料である。

### III 維新期の護法場

#### 14 垂天結社簿 2冊

紙本インク書

香月院深励門下の名簿。深励の出身地である越後をはじめとして、1264名の門下が名を連ねる。深励が末寺僧侶の養成にいかほど力を注いだかがうかがえる。本書は昭和39年(1964)の写。

#### 19 香山院龍温肖像 1幅

絹本着色

元治2年(1865)に15代講師に任じられた樋口龍温(1800～85)の肖像画。学寮では徳龍に師事した。明治維新に際して東本願寺学寮を率いる立場で活躍。仏法擁護とキリスト教排斥運動を行った。

#### 15 香樹院勤儉座談・香樹院教訓集 各1冊

紙本印刷

香樹院徳龍(1772～1858、越後国無為信寺)の著。徳龍は文政6年(1823)の東本願寺焼失後各地で布教し、募財活動に尽力した。世俗倫理を著した学僧としては、江戸時代随一である。

#### 20 上首寮日記(慶応4年8月4日条)

紙本墨書

全5冊のうち

キリスト教の急速な浸透にともない、慶応4年(1868)に開設された護法場は、学寮の敷地外にある越中国・井波瑞泉寺の京都屋敷(高倉上馬場)に設けられた。

#### 21 護法場随筆反古類集冊 1冊

紙本墨書

護法場開設に至る門首の直命や、その意義を説いた演説の草稿などを記す。香山院龍温の筆。演説の中で龍温は、「天文外曆書」「天主教録の邪徒」などを「対治」するため、真宗・仏教学以外の学問(外学)の研究と教育を行う必要があると説いている。

#### 25 開院院空覚の蓑 1枚

蓑

法場を統括した開院院空覚(1804～71)が使用していた遺品の蓑。空覚は、その改革姿勢をもって知られた。



#### 22 護法場規定並規則 (『明治初期東本願寺雑記』) 1冊

紙本墨書

護法場の学科目。国学(国学全般ならびに和歌や和文、神道諸流)・儒学(儒学全般ならびに漢詩文や経済)・天文学(天文地理や数学、曆学)・洋学(キリスト教)の教義と歴史という四つの外学が教授された。仏教外からの知見で宗学を立て直すという目的で講義が進められた。

#### 23 天路歷程・馬太福音書 古事記伝・論語・須弥界義 各1冊

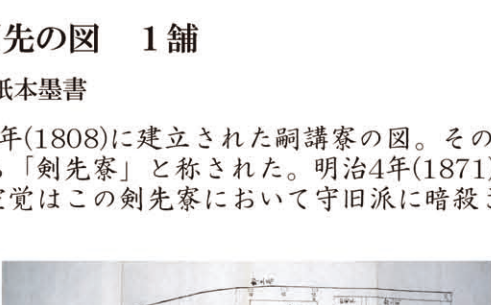
紙本印刷

護法場で教授された、真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類。

#### 26 剣先の図 1冊

紙本墨書

文化5年(1808)に建立された副講寮の図。その形状から「剣先寮」と称された。明治4年(1871)10月、空覚はこの剣先寮において守旧派に暗殺された。



#### 24 嚴如上人御一代記 全11冊のうち

紙本墨書

弘化3年(1848)から明治15年(1882)までの東本願寺宗門の動向を、諸資料に依り編年に記したものである。編者は不明だが、本書は佐々木月樵の書写になる。当時の学寮の動向も詳しく記されている。

### 今後の展覧予定

夏季企画展「仏教の歴史とアジアの文化」

2009年6月2日(火)～8月3日(月)

秋季企画展「南條文雄と近代仏教学(仮)」

2009年9月8日(火)～26日(土)

冬季企画展「京都を学ぶ」

2009年12月15日(火)～2010年2月13日(土)

### 特別展

「韓国美術の名宝—祈りと造形—(仮)」

2009年10月13日(火)～11月28日(土)

開館時間＝10:00～17:00 (入館は16:30まで) 観覧料＝一般・大学生：200円 小中高生：100円 (本学同窓生・在学生は無料) 休館日＝日・月曜日および5月5日(火)、6日(水)

〒603-8143 京都市北区小山上総町 Tel. 075-411-8483 Fax. 075-411-8146 http://www.otani.ac.jp/kyo\_kikan/museum/